



一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第107号 発行日:2024.8.31 News No.107 Japan Association of Human Relations August 31, 2024

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrjimukyoku@gmail.com URL: <https://jahr.jp/>

[内容] ☆巻頭言 ☆学会創立30周年記念誌完成報告 ☆北から、南から ☆会員の最新著書紹介 ☆事務局だより

《巻頭言》

第32回全国大会のご御挨拶

大会長 加藤 誠之 (高知大学教授/本学会理事)



このたび日本人間関係学会第32回全国大会を高知大学朝倉キャンパスで開催します。高知大学での開催は第18回全国大会(2010年)に続き2度目です。

14年の間には東日本大震災、福島第一原発事故、新型コロナウイルス感染症の流行等大きな事件がありました。特に新型コロナウイルス感染症の流行では、3年間にわたって外出もままならない日々を余儀なくされました。このたび皆様をお迎えして、対面で大会を開催できることを心から嬉しく存じております。我が国では、この30年間は「失われた30年」と呼ばれています。この時期は「今だけ、金だけ、自分だけ」と言われる新自由主義の横行により人と人のつながりが損なわれ、公共性が失われ、社会の基盤が揺らいだ時期でした。私の専門とする非行について言えば、1970年代～1980年代の暴走族は確かに反社会的集団であるとはいえ、非行少年に人と人とのつながりをもつ機会を提

供していました。それゆえ、非行少年は社会からはじき出されず、やがて彼らなりに居場所を見つけて「オチツいて」いきました。その後、非行の量的動向とされる少年刑法犯等検挙人員は激減し、非行は量的に激減しました。しかし、他方では、若者が人とのつながりをもてないまま孤立して暴発する事件を引き起こすようになったのではないかと思います。今回の大会ではテーマを「公共性の回復と人間関係の復活」と決めました。我が国では従来、個が自立しないまま全体に埋没し、時には全体のために犠牲を強いられることが多々ありました。今後は自立した個を背景とし、犠牲とは違う形で全体のために役立つ新しい公共性を模索していきたいと考えております。この問題を考える上で、自由民権運動の発信地になった高知県の歴史は今日的な意義を持っているのではないのでしょうか。9月27日(金)午後には語り部部会の御協力によるエクスカージョンも準備しておりますので、皆様奮って御参加下さいますようお願いいたします。南国土佐で皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

日本人間関係学会第 32 回全国大会

(一般社団法人・日本学術会議協力学術研究団体)

大会テーマ:公共性の回復と人間関係の復活

- ◆ 基調講演 (土佐町議員 鈴木 大裕氏)、大会招聘フォーラム (安全な生徒指導を考える会との共催)、自主シンポジウム、口頭発表・実践発表、総会、情報交換会等 (予定)
- ◆ 詳細は日本人間関係学会 HP>全国大会 (<https://jahr.jp/taikai/>) を御覧下さい。
非会員の方の御参加、当日の御参加も歓迎します。

日 時 2024 年 9 月 28 日(土)~29 日(日)

場 所 高知大学朝倉キャンパス共通教育棟 1 号棟

大会長 加藤 誠之(高知大学教育学部)

主 催 : 一般社団法人日本人間関係学会 第 32 回全国大会実行委員会

大会事務局 : 高知市曙町 2-5-1 高知大学教育学部 加藤 誠之研究室

連 絡 先 : jahr32thconference@gmail.com

後 援 : 高知県教育委員会 高知市教育委員会

日本人間関係学会第 32 回全国大会 大会招聘フォーラム

子どもの自殺の背景にある生徒指導と人間関係

(日本人間関係学会・安全な生徒指導を考える会の共催)

近年、我が国では教員の不適切指導によって児童生徒の自殺を引き起こす事件(「指導死」)が社会問題化しています。今回は「指導死」で御身内を亡くされた御遺族の会「安全な生徒指導を考える会」をお招きし、日本人間関係学会との共催で「指導死」を防ぐにはいかにすべきかを考えていきたいと思ひます。

日時 第1部：9月28日(土)13:00~14:30

第2部：9月29日(日)11:00~12:30

場所 高知大学朝倉キャンパス共通教育棟 127 番教室

* 非会員の方の御参加、当日の御参加も歓迎します。

* 大会招聘フォーラムだけ御参加の方は参加費無料です。

主催：一般社団法人 日本人間関係学会第 32 回全国大会実行委員会

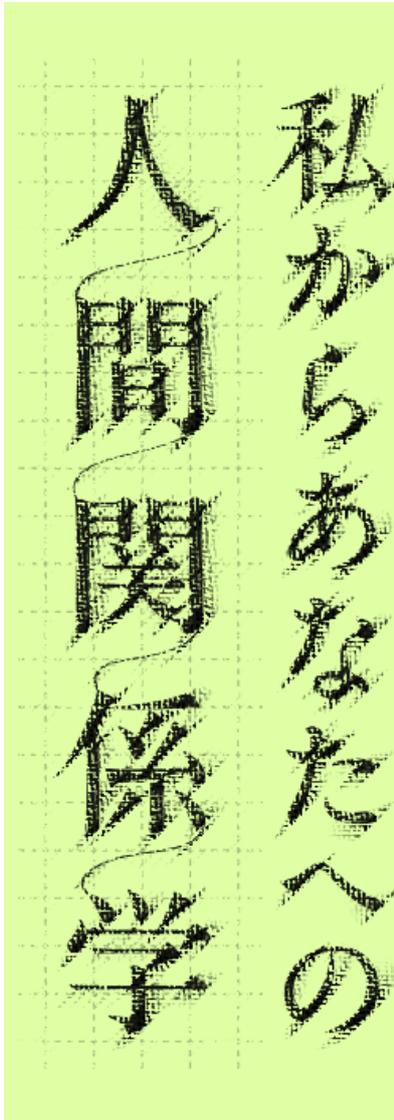
共催：安全な生徒指導を考える会

連絡先：加藤 誠之(高知市曙町 2-5-1 高知大学教育学部)

E-MAIL: jahr32thconference@gmail.com

後援：高知県教育委員会 高知市教育委員会

日本人間関係学会創立 30 周年記念誌完成報告



この度、日本人間関係学会創立 30 周年を記念し、学術研究出版より、『私からあなたへの人間関係学』を刊行する運びとなりました(2024 年 9 月 11 日)。本書は、会員の皆様の貴重な体験や経験をまとめたもので、人間関係学の多様な側面を紹介しています。学会員の皆さまのお手元には 9 月中頃に届けられる予定です。目次は 6-7 頁をご参照ください。

本記念誌の企画は、会員の皆様からの積極的なご投稿と、プロジェクトチームを初めとする役員一同のご支援ご協力なしには実現できませんでした。特に、原稿の収集や編集には多くの時間を要しましたが、皆様の熱意とご尽力のおかげで、充実した内容となりました。心より感謝申し上げます。

本書では、「北から、南から」といった本学会ニュースの伝統コーナーに加え、新旧の視点からの寄稿も多数掲載して全 5 部構成としています。

「第 1 部 北から、南から」は、全国各地の会員の皆様が、それぞれの視点から人間関係について綴ったエッセイ集です。

「第 2 部 順子の映画鑑賞記」は、映画を題材に、人間関係を多角的に考察したユニークな読み物です。

「第 3 部 とともに老いゆく」は、高齢化社会における人間関係のあり方を、専門家の視点から深く掘り下げています。

「第 4 部 人間関係学探訪シリーズ」は、学会員に対しての個別インタビューを通して、人間関係の普遍性を探求しています。

「第 5 部 記憶と記録」は、本学会のトピックを紹介し、人間関係学の重要性と奥深さを再認識できるものとなっています。

「人間関係力」は、現代社会においてますます求められる能力です。本学会は今後も、この力を高めるための研究と教育活動を積極的に推進していくことが期待されます。本書が、会員の皆様のみならず、広く社会の皆様にとって、人間関係を考えるきっかけとなることを願っております。

プロジェクトチーム 早坂三郎・三好明夫・森千佐子・
谷川和昭・田中典子

(文責：谷川)



日本人間関係学会・歴代の大会テーマ

開催回	開催日	大会テーマ	会場
第1回大会	1993年11月13日(土)-14日(日)	なし	神田外語大学
第2回大会	1994年11月5日(土)-6日(日)	なし	国立婦人教育会館
第3回大会	1995年11月11日(土)-12日(日)	かわりゆく社会と新しい人間関係	安田生命つつじヶ丘教育センター
第4回大会	1996年11月23日(土)-24日(日)	豊かな人間関係の創造を求めて	東海大学
第5回大会	1997年11月8日(土)-9日(日)	世界に広げる豊かな人間関係—冬季オリンピックの地 長野で人間関係を考える	長野短期大学
第6回大会	1998年11月7日(土)-8日(日)	出会いの創造とはぐみ	鳴門教育大学
第7回大会	1999年10月16日(土)-17日(日)	社会の変化のなかの人間関係—いやしと・たすけあいの 創造を求めて—	江戸川大学
第8回大会	2000年9月30日(土)-10月1日 (日)	21世紀にむけての人間関係の創造—豊かな共生をめ ざして—	尚綱女学院短期大学
第9回大会	2001年9月21日(金)-23日(日) ※9/21: フレコンgres	これまでのそしてこれからの人間関係	芦屋大学
第10回大会	2002年10月25日(金)-27日(日) ※10/25: フレコンgres	10周年記念大会 信頼的人間関係の創造	国立オリンピック記念青少年総合 センター
第11回大会	2003年11月14日(金)-16日(日) ※11/14: フレコンgres	これからの人生を豊かに生きるための人間関係づくり	東京理科大学野田キャンパス
第12回大会	2004年9月24日(土)-25日(日)	人を育む人間関係の構築と展開	樟蔭東女子短期大学
第13回大会	2005年11月28日(土)-29日(日)	生と死にかかわる人間関係 Well-Beingのために	国士舘大学世田谷キャンパス
第14回大会	2006年9月30日(土)-10月1日 (日)	支援して・されて共に生きる人間関係	特定医療法人北勢会北勢病院
第15回大会	2007年10月26日(金)-28日(日) ※10/26: フレコンgres	つながり、深めつつ、広げる人間関係	東京理科大学セミナーハウス(野 田キャンパス)
第16回大会	2008年10月11日(土)-12日(日)	ともに支え合って生きること人間関係	京都私学会館
第17回大会	2009年10月4日(土)-5日(日)	人間関係の忘れもの	文京大学
第18回大会	2010年10月9日(土)-10日(日)	人間関係の危機と再生	高知大学朝倉キャンパス
第19回大会	2011年11月19日(土)-20日(日)	今求められる人間関係力—絆—	岡崎女子短期大学
第20回大会	2012年9月22日(土)-23日(日)	20周年記念大会 時空を超えて、いま「生きる」意味 を問う	仙台白百合女子大学
第21回大会	2013年11月2日(土)-3日(日)	一歩前へ	東京理科大学葛飾校舎
第22回大会	2014年10月25日(土)-26日(日)	「いじめにかかわる人間関係」を考える	聖カタリナ大学
第23回大会	2015年11月14日(土)-15日(日)	互いに認め合い、救い合える人間関係を目指して	九州ルーテル学院大学
第24回大会	2016年11月19日(土)-20日 (日)	未来を磨く人間関係力の再生へ	関西福祉大学
第25回大会	2017年11月18日(土)-19日(日)	多様性に寛容な社会を目指して—人間関係力の向 上のために—	千葉商科大学
第26回大会	2018年12月15日(土)-16日(日)	人間関係づくり—成果から成熟へ—	東北医科薬科大学
第27回大会	2019年11月30日(土)-12月1日 (日)	超高齢社会における人間関係とオーラルフレイル	日本医療科学大学
第28回大会	2021年1月31日(日) (発行)	新しい生活様式と人間関係	誌上発表
第29回大会	2022年2月12日(土)	コロナ禍における人間関係を考える	オンライン開催
第30回大会	2022年12月3日(土)	30周年記念大会 変革期の社会を考える—安全と 安心のためのコミュニケーション—	甲子園短期大学
第31回大会	2023年9月9日(土)	With コロナ時代における対面コミュニケーションの重要 性と人間関係の構築に向けて	西南学院大学
第32回大会	2024年9月28日(土)-29日(日)	公共性の回復と人間関係の復活	高知大学朝倉キャンパス

出典) 『私からあなたへの人間関係学』 (第5部 記憶と記録) より

作成: 森千佐子・谷川和昭

日本人間関係学会創立 **30** 周年記念誌
30th Anniversary

Publication Project Team
30th
Anniversary

早坂 三郎
Saburo Hayasaka

三好 明夫
Akio Miyoshi

森 千佐子
Chisako Mori

谷川 和昭
Kazuaki Tanigawa

田中 典子
Noriko Tanaka

編集・一般社団法人 日本人間関係学会
Japan Association of Human Relations

私からあなたへの 人間関係学

目次

はしがき 3
早坂 三郎

第1部 北から、南から

第1章 学会史

思いで深い草創期 17
上原 貴夫

学会ニュース100号達成、おめでとうございます。 20
=学会の益々の交流と研鑽を期待します =

上原 貴夫

日本人間関係学会との出会い、そして未来に向かって 23
大石 幸二

第2章 研究・調査

地域を知る新たな一歩 25

谷川 和昭

「なぜ」「何」を突き止めるための人間関係を
基盤にした調査研究の重要性 29

田中 康雄

デンマークを見学して思ったこと 31

藤川 君江

国境を超える励ましのちから 33

叶 暎

第5福竜丸以外の船は意識から外されていた 35

瀬田 郁夫

法から見た人とヒトとの新たな関係 37

—動物の法的地位—

山崎 裕文

第3章 活動・自然

森の中で超フレッシュな人間関係 39

—楽しい森の保育園、ゼロ歳児から小学校低学年の子ども達と—

上原 貴夫

地域の新しい人間関係について 42

—まちづくりと人づくりとの関係—

釜野 鉄平

思送り 44

橋 令子

第4章 仕事・社会

雑感 45

早坂 三郎

リトミックとピアノの講師として思うこと 47

吹田 晶子

保育と私 48

佐藤 晴代

学生たちから学ぶ 49

黒木 真吾

学生たちから学び、改めて実感 51

—継続は力なり—

黒木 真吾

待っていてくれる人がいるから… 53

森 千佐子

余熱 55

佐々木 かなこ

家族に代わるこれらの看取り 56

石田 栄子

第5章 コロナ

コロナ禍に感じた学生たちのたくましさ 59

森 千佐子

コロナ禍後の1年半を振り返って 61

酒井 貴広

一年前のコロナ禍川柳（傑作選） 63

谷川 和昭

第6章 教育

高知大学教育学部の15年間 67

加藤 誠之

高知の生活綴方教師・森尚水 68

藤田 毅

奇異な世界の常 70

児玉 渉

“雑感” 75

馬橋 和恵

私のスタイルを通じ考えてみたこと 77

竹村 泰夫

ブルース・リーの思想 78

竹村 泰夫

「人間関係」という授業 80

天野 美和子

ふつうに暮らすしあわせ 82

石田 栄子

第7章 暮らし・家族

伊勢への家族旅行 85

—コミュニケーションを楽しんだ旅—

和香 詢子

松本敬歩 87

藤川 君江

至福の時 88

大森 亮哉

私にとつての“北から南から”【Part 1】 89

田中 典子

私にとつての“北から南から”【Part 2 大版篇】 91

田中 典子

私にとっての“北から南から”【Part 3】 93
田中 典子

姪が産まれて 95
相澤 絢子

義父と私とコーチング 97
青沼 法枝

オレだけのおとうさん 99
釜野 鉄平

おうち時間の活用 101
永野 典詞

猫とコーチングと私 103
三尾 多恵子

第8章 思索・人生

「なぜ人を殺してはいけないのか」について 105
加藤 誠之

ほくが思う「幸せについて」 107
鈴木 満

人類の過去・現在そして未来 109
早坂 三郎

2024年の目標 111
阿部 裕生

あの頃も、月を見ていた 112
石田 代利子

素直な気持ち 113
堀籠 ゆかり

私の人生観を184度変えてくれたものは？ 114
川又 幸代

ハンターゆうこの活力 116
荻場 祐子

わたしたちにできること 117
鈴木 満

出逢いと学び 119
堀籠 ゆかり

たくさんの“偶然”の出会いから 120
川又 幸代

相手と共有できるツールや文化を用いて 122
趙 敏廷

傾聴することの難しさ 124
目黒 達哉

ほどく時間 125
石田 栄子

第2部 順子の映画鑑賞記 橋本 順子

第1回 「運び屋」を観ての感想 129

第2回 「貧しさのなかで」 130

第3回 韓国の映画について語ります 131

第4回 「差別と偏見」 132

第5回 実話を映画化した作品について 133

第6回 グッチー族の悲劇を描く「ハウス・オブ・グッチ」 135

第7回 トップガンマーヴェリックを鑑賞して 136

第8回 戦争と映画—映画が戦争を描くことの意味— 137

第9回 「ノートルダム炎の大聖堂」 139

第10回 総集編（語録集） 140

第3部 ともに老いゆく 三好 明夫

ともに老いゆく 第一の号 143

ともに老いゆく 第二の号 145

ともに老いゆく 第三の号 147

ともに老いゆく 第四の号 149

ともに老いゆく 第五の号 151

ともに老いゆく 第六の号 153

ともに老いゆく 第七の号 155

ともに老いゆく 第八の号 157

ともに老いゆく 第九の号 159

ともに老いゆく 第十の号 161

第4部 人間関係学探訪シリーズ(抜粋)

人間関係学探訪シリーズ① 167
永野 典詞

人間関係学探訪シリーズ② 169
佐藤 貴志

人間関係学探訪シリーズ③ 171
三好 明夫

人間関係学探訪シリーズ④ 174
森 千佐子

人間関係学探訪シリーズ⑥ 176
早坂 三郎

人間関係学探訪シリーズ⑧ 178
加藤 誠之

人間関係学探訪シリーズ⑨ 180
鈴木 満

人間関係学探訪シリーズ⑩ 182
濱島 淑恵

人間関係学探訪シリーズ⑪ 184
藤川 君江

人間関係学探訪シリーズ⑫ 186
杉本 太平

人間関係学探訪シリーズ⑬ 188
田中 典子

人間関係学探訪シリーズ⑭ 190
田中 康雄

人間関係学探訪シリーズ⑮ 192
谷川 和昭

第5部 記憶と記録

日本人間関係学会ニュース創刊特別号(表紙) 197

日本人間関係学会ニュース創刊第100号記念号(表紙) 198

日本人間関係学会ニュース第106号(ロゴ入り、表紙) 199

学会ロゴマーク決定 200

日本人間関係学会・歴代の大会テーマ 201

北風口マンス(大会公式イメージソング) 202
〔吉本絵夢氏による楽曲提供〕

大会公式イメージソングの経緯 203

求められる「人間関係力」 204

〔佐藤啓子元顧問によるご寄稿〕

記念出版原稿追加募集のご案内 208

日本人間関係学会 役員名簿(2024年4月1日現在) 209

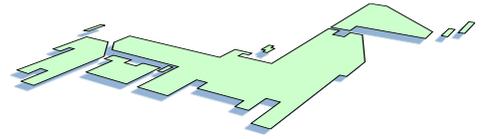
あとがき 211

谷川 和昭

私からあなたへの人間関係学・著者一覧 213

北から、南から

世の人は我を何とも言わば言え 我が成す事は我のみぞ知る



相手から馬鹿にされた時の対処法 —高知出身の有名人による仮想自主ラウンドテーブル—

匿名希望

日本人間関係学会第32回全国大会でのことである。時空を超えて、高知県出身の3人の有名人が、自主ラウンドテーブルを開き、人間関係について語り合った。

お題は、「相手から馬鹿にされた時の対処法」で、示唆されたのは以下の5点である。

- ①自分の気持ちを大切にすること
相手の言葉に振り回されず、自分の気持ちをしっかりと持つことが大切ということです。
- ②相手のことを理解しようとする事
なぜ相手がそのようなことを言うのか、背景を探ることで、状況を客観的に見ることができるということです。
- ③堂々としていること
自信を持って、堂々と生きていくことが大切だということです。
- ④優しさを持って接すること
相手を傷つけずに、優しく接することが、良好な人間関係を築く上で重要だということです。
- ⑤相手も人間であることを忘れないこと
誰だって認められたい、誰かに必要とされたいと思っているということです。

登場人物は、つぎのお三方である。(何処かで聴いたような、観たような、それはさておき…)

登場人物

坂○龍○ 幕末の志士。豪快で自由な性格。

広○涼○ 女優。明るく優しい雰囲気。

やな○たか○ 「ア○パ○マ○」の作者。子ども心を持った優しい人物。

2024年9月29日、日本人間関係学会第32回全国大会が開催されている高知大学キャンパス大会会場内。3人が久しぶりに落ち合った。学会の自主ラウンドテーブルの席上である。

やな○たか○: みんな、集まってくれたね。今日は、学会の自主ラウンドテーブルを企画しましたが、みんなで話し合ってみよう。特に、相手に馬鹿にされた時、どうすればいいのか、すごく気になるよね。

広○涼○: そうですね。私も若い頃は、よくそんなことで悩んでいました。でも、今は、あの経験があったからこそ、今の自分があると思っています。

坂○龍○: おいおい、お嬢ちゃん。そんな悩み、男ならもっと度胸を付けて乗り越えんといかん。

広○涼○: 龍○さん、そんなこと言わないでくださいよ(笑)。女性だって、悩みますよ。

坂○龍○： わかった、わかった(汗)。でもな、俺が思うに、大事なのは、まず自分の気持ちをはっきりさせることだ。相手が何を言おうと、自分は自分だっていう自信を持つことや。

やな○たか○： 龍○さんの言う通りだね。それに、相手がなぜそんなことを言うのか、考えてみることも大切だよ。もしかしたら、相手も何か悩みを抱えているのかもしれないしね。

広○涼○： やな○さんの言う通りですね。相手のことを理解しようとすることで、状況が変わることがあります。

坂○龍○： そうじゃ。それに、あんまり気にし過ぎると、自分がどんどん小さくなってしまう。もっと堂々と生きていくことが大切や。

やな○たか○： 龍○さんの言葉、かっこいいですね！でも、堂々としていることと、相手を傷つけることは違います。優しさを持って接することが大切だと思います。

広○涼○： やな○さんの言う通りですね。優しさを持って接することで、相手との関係が改善されることもあります。

坂○龍○： そうじゃな。結局は、人間はみんな同じや。誰だって認められたいし、誰かに必要とされたいと思っとる。

広○涼○： 龍○さんの言葉、心に響きます。

やな○たか○： みんなの話を聞いて、改めて人間関係の大切さを実感しました。相手のことを思いやる気持ち、そして自分自身を大切にすることが、良好な人間関係を築く秘訣なのかもしれませんね。

広○涼○： 龍○さん、やな○さん、本当にありがとうございました。おかげさまで、少し気持ちが楽になりました。でも、いざその場になると、やっぱり怖くて何も言えない自分がいます。

坂○龍○： お嬢ちゃん、それはそうじゃ。でもな、大切なのは、その場を避けるんじゃなく、正面から立ち向かうことや。最初は怖いかもしれんけど、一歩踏み出せば、必ず道は開ける。

やな○たか○： 龍○さんの言う通りだね。それに、相手を責めるのではなく、自分の気持ちを正直に伝えることが大切なんだ。例えば、「あなたのその言葉、私はちょっと傷ついたな」と、率直に伝えてみるのも良いかもしれないね。

広○涼○： そうですね。でも、そうすると、また余計に嫌な思いをするんじゃないかと心配です。

坂○龍○： それは、相手次第や。もし、本当に友達なら、きっとわかってくれるはずや。もし、わかってくれなかったら、それはもう、その人との縁がなかったんや。

やな○たか○： 龍○さんの言葉は厳しいけど、確かにその通りだな。大切なのは、自分にとって本当に大切な人間関係を築くことなんだ。

広○涼○： みなさんの話を聞いて、少し勇気が出てきました。でも、やっぱり怖いな……。

坂○龍○： 怖がらんでもええ。まずは、小さなことから始めてみたらどうじゃ。例えば、誰かに感謝の気持ちを伝えるとか、誰かの手伝いをするとか。そうやって、少しずつ人間関係を築いていけばええ。

広○涼○： はい、ありがとうございます。頑張ってみます。

やな○たか○： 広○さん、もう一つアドバイスがあるんだけど、いいかな？

広○涼○： はい、もちろんです！

やな○たか○： それはね、「鏡を見るように、相手にも目を向ける」ということなんだ。相手が何を考えているのか、どんな気持ちでいるのか、想像してみるんだ。そうすることで、相手への理解が深まり、より良いコミュニケーションがとれるようになると思うよ。

広○涼○： 鏡を見るように、相手にも目を向ける…、なるほど。やってみます！

坂○龍○： お嬢ちゃん、あとはな、笑顔を忘れずに。笑顔は、どんな時でも人を明るくしてくれる。笑顔で接すれば、相手もきっと心を開いてくれるはずや。

広○涼○： はい、笑顔を忘れずに頑張ります！

そうして3人は、学会の自主ラウンドテーブルを無事に終了したのである。めでたし。めでたし。

質の高い支援を提供するために

本学会理事の大石幸二会員が、対人援助サービスをより良いものにするための支援の考え方や技法をわかりやすく解説するテキスト、『動画で学ぶ生涯福祉入門』を上梓しました。本書は、動画を視聴しながら生活モデルに基づく支援から多職種連携につなぐまでの道すじを学べます。



大石幸二 編集 野崎陽弘 著 126頁 学苑社
2024年7月刊

目次

第1章 障害福祉実践の省察と変革

- 1 経験学習モデルにおける「省察」
- 2 省察を活かした学びと人材育成
- 3 支援の礎①「視点・見え方・捉え方」
- 4 支援の礎②「“違い”の価値と重要性」
- 5 障害福祉実践の変革とソーシャルワーク

第2章 医学から見た障害理解と支援

- 1 神経発達症の診断
- 2 神経発達症の病態仮説
- 3 神経発達症の2次障害と併存障害
- 4 神経発達症の薬物療法
- 5 福祉的支援を得るための診断書

第3章 生活モデルと新しい障害概念

- 1 障害概念の歴史の変遷
- 2 ICDH と医学モデルの関連
- 3 生活モデルと ICF の関連
- 4 Aくんの事例①— ICDH に基づくアセスメントと支援計画
- 5 Aくんの事例②— ICF に基づくアセスメントと支援計画

第4章 行動障害の理解と支援

- 1 強度行動障害の定義と発現メカニズム
- 2 不安・恐怖が自傷や他害、破壊に至る連鎖の解除
- 3 関わり手（教師や指導員、親）から見た自傷や他害、破壊行動の機能
- 4 環境調整と構造化

第5章 心理検査の理解とその活用

- 1 アセスメントとは何か— 一つの理解を深めることの重要性
- 2 心理検査のしくみと構造（ウェクスラー式知能検査）
- 3 WAIS-IVの結果の読み取りと実践へ生かす視点
- 4 受検を勧めるときの注意点
- 5 さまざまな心理検査

第6章 氷山モデルの考え方と実践

- 1 氷山モデルとは— その歴史と基本的理解
- 2 現在の氷山モデルの考え方と氷山モデルシートの活用
- 3 氷山モデルシートを使って行動を整理する
- 4 事例で考えてみよう
- 5 最後に— より良い支援に向けて

第7章 応用行動分析技法の理解

- 1 行動を理解する枠組みとしての行動のABC
- 2 正の強化と行動のはたらきの理解
- 3 行動問題の動機づけ尺度
- 4 行動の成立条件と課題分析
- 5 行動的QOLの考え方

第8章 環境調整と構造化の活用

- 1 TEACCHプログラムについて
- 2 構造化による指導
- 3 行動障害の改善に関する構造化の効果
- 4 成人施設での構造化の実践事例

第9章 事例検討とスーパービジョン

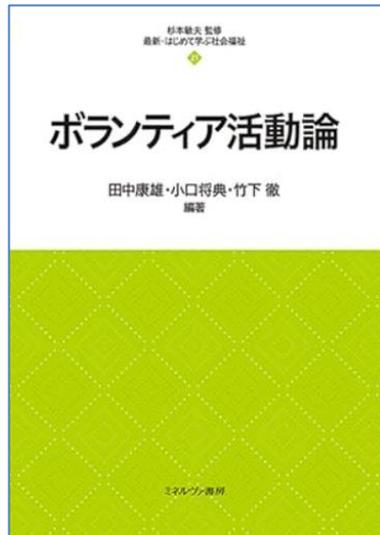
- 1 支援者を支えるシステムとしての事例検討
- 2 事例検討会議を開くために
- 3 事例検討会議の流れ
- 4 スーパービジョンの目的と機能
- 5 スーパーバイザーに求められること

第10章 多職種連携とコンサルテーション

- 1 3者関係としてのコンサルテーション
- 2 人的環境の影響
- 3 コンサルタントの役割
- 4 コンサルタントの切り口
- 5 コンサルテーションとチームアプローチ

ボランティアが行動することを支えるために

本学会理事の田中康雄会員と竹下徹会員が、理論と実践を結ぶボランティア活動の入門書『ボランティア論』を上梓しました。本書はボランティアに関心のある人が一歩を踏み出すことを支えるため、具体的な活動を取り上げながら参加の方法や必要な心構えなどについても解説しています。



田中康雄・小口将典・竹下徹 編
184頁 ミネルヴァ書房 2023年9月刊

- 第Ⅰ部 ボランティアに関する概念
 - 第1章 社会における生活課題の解決にわたるボランティアの存在
 - 1 現代における生活課題
 - 2 多様なサービスとその課題
 - 3 生活課題の解決に向けて
 - 第2章 ボランティアとは
 - 1 ボランティアの概念
 - 2 ボランティア活動の現状
 - 3 ボランティア振興に関する主要な出来事
 - 4 特定非営利活動促進法
 - 第3章 ボランティアの歴史
 - 1 西洋の歴史からみるボランティア
 - 2 日本の歴史からみるボランティア
 - 第4章 ボランティアに関する研究動向
 - 1 社会の変化とボランティア研究の関連
 - 2 ボランティア研究の内容
 - 3 ボランティア研究のおもしろさ
- 第Ⅱ部 ボランティアの活動の範囲とボランティアへの参加に向けて
 - 第5章 ボランティア活動の範囲
 - 1 ボランティアの価値観
 - 2 ボランティア活動の場
 - 3 ボランティアの組織化と国際化
 - 第6章 ボランティア活動の探し方
 - 1 活動できることを探そう
 - 2 ボランティア活動の相談先と情報源
 - 3 ボランティア活動の登録をしよう
 - 第7章 ボランティア活動に臨むために
 - 1 ボランティア活動の多面性
 - 2 ボランティア活動に参加するにあたっての意識
 - 3 継続的にボランティア活動を進めるために
 - 第8章 地域課題の発見に向けて
 - 1 ボランティア活動を通してみえてくる課題
 - 2 地域課題の解決とボランティア活動
 - 3 地域課題を話し合う場づくり
- 第Ⅲ部 ボランティア活動の実践
 - 第9章 子どもと子育て世代に対するボランティア活動
 - 1 地域の子ども家庭支援事業を支えるボランティア
 - 2 民間団体等による活動を支えるボランティア
 - 3 障がいのある子どもと家庭を支えるボランティア
 - 第10章 障がいのある人や高齢者等の様々な人に対するボランティア活動
 - 1 障がいのある人に対するボランティア
 - 2 高齢者に対するボランティア
 - 3 その他のボランティア
 - 第11章 災害時のボランティア活動
 - 1 災害とは何か
 - 2 災害時のボランティア活動の実際
 - 3 暮らすことを続けるということ
 - 4 続いていく思い——イメージすること、思いを馳せること
 - 第12章 地域・まちづくりとボランティア活動
 - 1 地域・まちづくりの概念が生まれた背景
 - 2 地域・まちづくりと自治
 - 3 地域・まちづくりと公民館
 - 4 地域・まちづくりに参加する意義と今後の課題
 - 第13章 ボランティアと教育
 - 1 ボランティアに関する教育が求められる背景
 - 2 ボランティア教育の対象と内容
 - 3 ボランティア教育の実践とポイント
 - 第14章 グローバルな視点による海外ボランティア
 - 1 国際協力とODA
 - 2 JICA
 - 3 JICA海外協力隊
 - 第15章 ボランティアの力とボランティア活動による学びと喜び
 - 1 ボランティアの力
 - 2 ボランティアの可能性と限界
 - 3 ボランティアを通じた学びと喜び

事務局だより

【会員動向】（2024年4月1日～2024年8月31日）

2024年8月31日現在

会員130名（正会員：104名 一般会員：9名 準会員：17名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員：13名 ・前川洋子・立忝壮得・坂本真季・澤 祐輔・熊井正之・壬生尚美・

竹森亜美・遠藤 愛・清谷典生・石田栄子・白石京子・高田美咲・池田真由美

準会員：6名 ・布川仁美・能野仁己・石鍋日陽・木村優里・富岡花菜・吉田百合香

（敬称略）

9月になり高知県での第32回全国大会がまもなく開催となります。秋には、ご所属等のご移動とともない、ご住所の変更となる方がいらっしゃると思います。変更されました際には、学会事務局までご連絡をお願いいたします。

今年度から、事務局は森千佐子先生から、鈴木満が引き継いでおります。森先生におかれましては、事務局長として長きに渡り学会活動をお支えいただきました。誠にありがとうございます。事務局に対しましては、引き続き、森先生はじめ、みなさまのご高配をたまわりたいと存じます。何卒、よろしくお願い致します。

学会ニュースは年2回発行（2月・8月）

「北から、南から」の原稿は会員であれば、どなたでも投稿できます。

お寄せいただきたいのは、**400～1,000文字**程度です。多少オーバーしても大丈夫。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までの投稿分は2月発行のニュースに掲載

7月末までの投稿分は8月発行のニュースに掲載

送付先 広報委員会（谷川）まで tanikawa@kusw.ac.jp

（編集後記）

今号は、日本人間関係学会創立30周年記念誌『私からあなたへの人間関係学』完成報告を掲載いたしました。本書は、学術研究出版社より9月11日～12日頃に皆様のお手元に届けられる予定です。本書が皆様にご好評いただけますようお願いしております。また、作者療養中のため「順子の映画鑑賞記」は今号から次号までの間、休載することになりました。読者の皆様には何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。連載の再開（再会）を楽しみにいただければ幸いです。なお、この度、新事務局長の鈴木満理事には「事務局だより」と配信等のみならず、30周年記念誌の発送準備等にも多大なるご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。（谷川）